



核も戦争もない持続可能な東アジアをめざす日韓市民戦後 70 年声明

私たち PEACE&GREEN BOAT は、平和で持続可能な東アジアをめざし、10 年間にわたり日韓市民による船旅を行ってきました。8 回目の今回も日韓両国から 500 名ずつの市民が参加し、歴史、環境、文化、平和などについて議論しながら、10 日間にわたり日本、韓国、ロシアを訪問し、多くの友情を育んできました。

この船旅を通じ、私たちは現在の東アジア、とりわけ日韓における平和と環境に関わる差し迫った問題を学ぶとともに、それらを乗り越え、真に平和で持続可能な東アジアを実現するために何をなすべきかを話し合ってきました。

そして本日、原爆投下から 70 年を迎えた 8 月 9 日、ここ長崎に寄港し、日韓市民で平和祈念式典に参加させていただきました。船上では、田上長崎市長、日韓の元首相、日韓の被爆者の方々とともに「被爆 70 年、ナガサキから未来へ」を開催し、原爆と放射能の恐ろしさ、そして核兵器廃絶への被爆者の方々の願いと努力、さらには核兵器禁止への国際社会の動きを改めて日韓市民で共有することができました。

一方、日本では 8 月 14 日、安倍首相が「戦後 70 年談話」を発表すると言われており、村山談話の歴史認識が覆されることが懸念されています。また、日本の国会では、日本国民の多くが反対し、ほとんどすべての日本の憲法学者が違憲であると指摘する安保関連法案が強行に成立させられようとしています。これらは、再び、東アジアを戦争の時代へと導かねない危険な動きと言わざるを得ません。

また、日本の福島第一原発事故は未だ収束には程遠く、10 万人を超える被災者の方々が仮設住宅に住むことを余儀なくされ、汚染水は太平洋に垂れ流され続けています。また、韓国でも古里原発周辺住民に放射線被曝による深刻な健康被害が出ており、原発は東アジアの環境と人権を破壊する存在であることも明らかになっています。にもかかわらず、この約 2 年間一基の原発稼働も許されなかった日本で、明後日の 8 月 11 日、鹿児島県の川内原発の再稼働が予定されています。

私たち PEACE & GREEN BOAT はこのような東アジアの環境と平和を脅かす深刻な問題を真摯に受け止め、その解決のために以下のことをここに要請します。

- 1、核兵器により被爆した自国民をもつ日韓両政府に対し、核兵器廃絶を目指す国際合意「人道上の誓約」への署名と核兵器禁止条約実現への真摯な外交努力を行うことを要請します。
- 2、安倍首相に対し、戦後 70 年談話において村山談話の歴史認識を継承し「侵略」「植民地支配」「痛切な反省」「心からのお詫び」という言葉を明確に表現するとともに、対話による信頼醸成を基盤とした武力によらない平和外交を実行することを要請します。
- 3、日本の立憲主義を根底から揺るがすとともに、「不戦」を誓った国際公約でもある日本国憲法 9 条を否定し、東アジアの国々をさらなる軍拡競争と相互不信へと駆り立てる、現在審議中の日本の安保関連法案の廃案を要請します。
- 4、ヒロシマ・ナガサキ・フクシマという人類史的経験を踏まえ、日本政府および九州電力に対し、川内原発の再稼働取り止めに強く求めるとともに、日韓両政府に対し、脱原発・自然エネルギーを推進する政策を力強く押し進めることを要請します。

最後に、私たちは日韓市民による今回の船旅の経験を踏まえ、戦後 70 年目の長崎の地から、お互いが認め合える歴史認識を築き、核兵器も原発もない平和で持続可能な東アジアの実現に向けて真剣に努力を続けることをここに誓います。

2015 年 8 月 9 日
チェ・ヨル(韓国・環境財団代表)
吉岡達也(ピースボート共同代表)